

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

## 第24回全国大会開催にあたって

日本教育工学会会長 赤堀侃司（東京工業大学）

10月11日から13日までの3日間、上越教育大学で日本教育工学会の第24回全国大会が、開催されます。大会は、言うまでもなく、学会の重要な活動であり、この企画運営は、多くの学会員のボランティアで行われます。特に、木原委員長を中心とする大会企画委員会、南部委員長を中心とする実行委員会が、車の両輪であり、大会を引っ張るエンジンとなっています。今年は、大会日程が、日本教育心理学会などの学会と重なるという厳しい条件下で開催されることから、発表件数や参加者数の減少という危機感をもっていますが、それを乗り越えるべく、両委員会が中心になって、いろいろな企画が提案されています。

1つは、上越教育大学らしく、**教師教育や教員養成のテーマ**を、シンポジウムなどで取りあげて議論することです。現職教員の研修や教職大学院など、教員養成をめぐる議論は、きわめてホットな今日的话题です。日本教育工学会としても、この分野に関わっていく姿勢が大切なので、学会員以外の現職の先生方にも、有料で参加を呼びかけています。北米メリーランド大学のイミグ先生の招待講演も、楽しみです。

2つは、昨年に引き続いて、**ポスターセッション**が開催されることです。昨年度は、ポスターセッションが初めてという危機意識があって、呼びかけも行いましたので、多くの発表が集まり盛況でした。今年はどうなるのか、発表時間の制限を設けるなど、新しい試みがありますが、大切なことは継続することです。是非、盛り立てていただけるよう、お願いします。

最後は、是非、**熱い議論**を行っていただきたいということです。学会に参加する醍醐味は、研究内容について、考えを共有し、共鳴し、反論し、新しい知見に触れ、創造していくことだと思います。誰でも、遠慮したり、気遣ったり、恐れられますが、研究においては、そのような壁はまったくありません。年齢、役職、国、性別などすべての垣根を越えて、語りあいましょう。大会に参加して、本当に良かったという思い出を、お作りください。

### 本号目次

第24回全国大会開催にあたって（巻頭言）	1	夏の合宿研究会報告	4
第24回全国大会のお知らせ（最終報）	2	論文誌特集号のご案内（第三報）	6
研究会発表募集／報告	3	編集委員会からのお知らせ	7
冬の合宿研究会のご案内（第一報）	4	学会日誌等	8

# 日本教育工学会 第24回全国大会のお知らせ（最終報）

日本教育工学会第24回全国大会を、下記のように上越教育大学において開催します。合計430件（シンポジウム12件、課題研究32件、一般研究373件、インターナショナルセッション13件）と、大変多くの発表が予定されています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

## 1. 開催期日・会場

期日：2008年10月11日（土）～13日（月）（3日間）

会場：上越教育大学 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

JR北陸本線・信越本線「直江津駅」よりバス20分、タクシーで約15分。JR信越本線「高田駅」よりバス15分、タクシーで約10分。直江津駅、高田駅より直行バスを運行する予定（片道200円）。

<http://www.juen.ac.jp/gakkai/jset2008/access.html>

## 2. 大会日程

第1日 10月11日（土）	第2日 10月12日（日）	第3日 10月13日（月）
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食 各種委員会	12:30～14:00 昼食	12:30～13:30 昼食
13:30～15:30 シンポジウム1	理事・評議員会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:00～14:30 全体会	13:30～16:00 課題研究発表
	14:30～17:15 シンポジウム2	
	17:15～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

\*企業展示が11日（全日）、12日（16時まで）に催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

大会プログラムの詳細については、別紙にてご案内いたします。また、JSETホームページの大会専用ページでもお知らせいたします。

## 3. 大会当日の受付について

### ①事前送金済みの場合

- ・ 大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・ 大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ プリントして持参していただいた「大会参加証(名札用)」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・ 大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいてください。
- ・ 大会受付票を紛失された方は、「事前送金参加受付票」に必要事項を記入の上、「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出ください。
- ・ 送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合も、「事前送金済参加者」窓口でお受けします。

### ②当日参加の場合

- ・ 当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ちください。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・ お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ 名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れてください。
- ・ 懇親会費を支払われた場合は、名札にマークをはらせていただきます。

## 4. 問い合わせ先

大会全般に関しては、以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用電子メールアドレス： [taikai2008@jset.gr.jp](mailto:taikai2008@jset.gr.jp)

研究会の発表募集



テーマ 教育システム・教材開発のためのICT活用／一般

- 日時：2008年12月20日（土）
- 会場：いわき明星大学
- 開催担当：渡邊 景子（いわき明星大学）
- 申込締切：2008年10月20日（月）
- 原稿提出：2008年11月20日（木）

●募集内容：秒進分歩で進化し多様化するICTと同様に、その教育利用もまた、めまぐるしい速さと広がりを持って進展しています。今回の研究会では、計画段階の教育システム・教材の紹介から、実際に稼働・実践しているものまで、「ICTの活用」に焦点を当てた研究を募ります。特に高価な装置がなくてもできる身近な技術の活用事例やアイデア等、実践者の方々からの発表を歓迎し、議論を深めたいと思います。

また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集します。

●申込方法：

研究会Webページよりお申し込みください。  
<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●申込期限：2008年10月20日（月）

締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出期限：2008年11月20日（木）

原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録ください。尚、期限を過ぎた場合はキャンセルしていただく場合があります。

今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ（予定を含む）	開催場所
2009年 3月 7日	ICTの教育活用と授業設計／一般	椙山女学園大学
2009年 5月 16日	ICTを活用したFD／一般	徳島大学
2009年 7月 4日	教科教育学と教育工学の交差点／一般	宮崎大学

●発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

●研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: [study-group-core@jset.gr.jp](mailto:study-group-core@jset.gr.jp)

年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です（当日売りは割高になります）。年間5冊、合計500ページ前後で、各研究会平均20件程度（平成18年度実績）の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル  
TEL/FAX：03-5740-9505 E-mail: [office@jset.gr.jp](mailto:office@jset.gr.jp)

研究会の開催報告

●日時：2008年9月6日

●発表件数：28件

今回は、「学校図書館と情報教育」をテーマとした研究会を、新しいタイプの学校図書館である玉川学園マルチメディアリソースセンター

(MMRC)を発表会場として開催いたしました。学校図書館を主題に据えた研究会は学会初の試みでしたが、学校図書館領域における地道な実践と、その教育方法や研究手法、学校図書館評価など、多様なアプローチの発表に恵まれ、活発な討議が展開されました。参加者の半数以上が非学会員の学校図書館関係者でしたが、当学会の開かれた雰囲気への好印象と、次回発表への意欲の声が多く聞かれました。ご参加・ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

(担当：玉川大学 河西由美子)

●会場：玉川学園MMRC

●参加者数：85名



## 2008年度 冬の合宿研究会のご案内（第一報）

今年度の冬の合宿研究会は、下記のとおり、熊本にて合宿形式で行います。夜も議論できるように企画を進めますので、参加日程の確保をお願いします。

記

日 時：2009年2月21日（土）－22日（日）1泊2日

場 所：熊本地区（温泉宿での宿泊形式を予定しています）

テーマ：（仮題）高等教育現場における教育技術を問う

担 当：鈴木克明（熊本大学）、高橋 純（富山大学）、稲垣 忠（東北学院大学）

## 2008年度 夏の合宿研究会報告

「教育における“技術”を考える」と題した夏の合宿研究会が、2008年8月9日（土）と10日（日）の2日間にわたり、秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーにて開催されました。地元秋田県をはじめ、全国から多数の参加者（総計60名）が集まりました。

研究会は、9日13時30分に開会し、鈴木克明企画委員会副委員長の開会挨拶のあと、東北大学大学院・教授の生田久美子氏より、「＜再考＞教育における「技能」概念－「傾向性」としての「わざ」概念に注目して－」と題した講演が行われました。『「教える」とは何か？「学ぶ」とは何か？』という問いを出発点に教育概念を分析し、「知識観」の反映としての教育方法を分析することで、知識を見ることができると、また、西欧の「知識論」の体系では、知識は言語化・記述可能な命題的な知識に限定され、「実践（知）」は「知識」ではない二次的・従属的な扱いとなっていることが紹介されました。さらに、我が国の学習指導要領の中の「技能」についても言及があり、『「技能」対「知識」・「理解」』と、技能が知識や理解と対比する形で記述されていることについて検討する必要があること、労働手段説と意識適用説の二つの「技術論」を引用し、学習指導要領の中の記述が『「知識」対「技術」』、『「知識」対「実践」』と、技術、実践を知識と切り離れた解釈をしていることと符号することが示されました。その後、G・ライルのKnowing How理論が紹介され、「技能（Knowing How）」は「理知性（Intelligence）」の表れであり、「一つの傾向性（disposition）ないし諸々の傾向性の複合体」と捉えられることが示されました。また、そこから発展して「わざ」概念に注目して行った、宮大工の棟梁と弟子の言説の分析より、Knowledge skillとしての「わざ」は、ライルが解釈する「技能」概念よりもはるかに「状況的かつ関係的概念」であるとの講演が行われました。



講演に引き続き、15時10分からは「“教育の技術”を教育工学でどう考えてきたのか」というテーマで、水越敏行氏（大阪大学名誉教授 関西大学特別顧問）、西之園晴夫氏（学習開発研究所代表 京都教育大学名誉教授）による対談が行われました。それぞれの立場で、技術、日本の教育の問題点、海外の学校、大学における教育の紹介、教員養成、教師教育、大学授業の改善など、多岐にわたる話題が展



開されました。水越氏からは、マルチメディアと関連させた学習を高校までの段階で行わせることが重要であり、大学のすべての学部で必要な基礎力となるとの指摘、西之園氏からは、経済格差が教育格差につながっていることを問題視し、「教える教育」から「学ぶ教育」へと転換し、教育コストを下げることの重要性についての指摘がありました。フロアからの質問に対しても、具体的な事例を示しながら回答がなされ、予定していた時間をオーバーして議論がなされました。対談終了後、懇親を兼ねた情報交換会では、きりたんぼ、ハタハタ、秋田の銘酒など、秋田の味を楽しみながら、熱い議論が展開されました。

翌日朝9時から、南部昌敏氏（上越教育大学）の司会により、梅澤実氏（川口短期大学）、益子典文氏（岐阜大学）、濱田純氏（秋田県教育庁）をパネリストとして迎えて「学校内での教育技術の伝承を考える」というテーマでパネルディスカッションを行いました。まず梅澤氏から、国語科の教師として自分自身がどのように成長してきたのか、学校で校内研修をどのように導いてきたか等、自身の経験と研究に基づきながら、教育技術の伝承について話題提供がなされました。次に益子氏から、学校内での技術の伝承について、現状からすると悲観的に捉えざるを得ないこと、技術を「伝える」のではなく「伝わる」が重要であり、技術は教えてもらおうと伝承されない、むしろ技術の盗み方の素地作りをすることが重要である点が指摘されました。最後に、濱田氏から、「いかにして教師は学んでいくのか」について、先輩教師の授業から学ぶ、導入の技術を盗む、子どもから学ぶ、子どもの中から授業を作る、教材の解釈から学ぶ、子どもと教材をつき合わせる、先輩とコラボレーションして学ぶ、組織・システムから学ぶ、出会う組織と仕組み作りの重要性が述べられた。これらの話題提供をもとに活発な意見交換がなされ、フロアからは、なぜ授業だけにこだわるのか、なぜ学校の目標にこだわらなくてはいけないのか、教師の成長モデルを見える形にする必要があるのでは等の質疑や意見が出されました。



最後に、鈴木克明氏（熊本大学）から「教育工学研究の固有性とは何か？」という題で小講演が行われました。2003年の第19回全国大会でのシンポジウム「教育工学の研究方法論を探る」と関連付けながら、教育工学研究の固有性や隣接研究との差異について示されました。また、AECTによる教育工学の定義が変容していることに触れ、教育工学研究の固有性の無さに言及しつつ、中野照海氏（1979）による5つの教育工学的思考・理念についてまとめられました。これに対しフロアからは、「教育工学が日本ではなくなったらどうなるか？」「日本における教育工学発祥のルーツを踏まえて、Lesson Studyのように日本発の構えを持ってほしい」などの意見が出されました。全てのプログラムが12時に終了し、美馬のゆり企画委員会委員長の挨拶により閉会しました。

多くの講師の方にご協力いただき、またお盆直前のお忙しい時期にもかかわらず多数の方にご参加いただき、非常に中身の濃い合宿研究会となりました。深く感謝申し上げます。

文責：姫野完治（秋田大学）

なお、本報告は長谷川元洋氏（金城学院大学）、小柳和喜雄氏（奈良教育大学）による詳細なメモをもとに作成しました。深謝いたします。

# 日本教育工学会論文誌 論文募集

## 特集号「協調学習とネットワーク・コミュニティ」のご案内（第三報）

近年、進展著しい協調学習研究ですが、学習コミュニティをどう把握・デザインするかという研究はまだ緒についたばかりです。今後は、協調学習とそれが展開するコミュニティの構築を支援する研究を促進する必要があります。そこで本特集号では、コミュニティをデザインし、支援するという観点を含む学習環境研究を集約し、協調学習やその支援テクノロジーの「社会的なデザイン方針」についての総括を目指します。特集号の趣旨に適した理論的なレビュー論文や考察論文、また現在展開されている教育実践による実証的研究論文の投稿を期待しています。

### 1. 対象分野

- (1) 多様な学習者ネットワークを創造するための協調学習の利用
- (2) ブログやSNSといったICTを利用した学習環境のデザイン、およびその実践
- (3) 学習者共同体のデザインと、その学習効果の実証的な検討
- (4) エスノグラフィなどの手法を用いた学習者ネットワークの分析
- (5) 学習活動のネットワーク構造の数量的な分析（潜在構造分析、ネットワーク分析など）
- (6) 実社会での学習・熟達化の過程に関する調査研究、モデルの提案
- (7) 教室や道具などの学習環境のデザインが学習者共同体に与える影響の分析

### 2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能です。ただし、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

### 3. 論文投稿締め切り日（2009年11月発行予定）

投稿原稿を2月9日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月16日までは、論文を改訂することができます。従来の特集号の場合とは異なり、締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2009年2月 9日（月）

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2009年2月16日（月）

### 4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿してください。郵送による投稿は受け付けないことになりました。

### 5. 問い合わせ先

電子メール：tokushu2009@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

### 6. 特集号編集委員会

委員長：大島 純（静岡大学）

幹事：大島律子（静岡大学）

委員：稲垣成哲（神戸大学）

向後千春（早稲田大学）

鈴木栄幸（茨城大学）

中原 淳（東京大学）

平嶋 宗（広島大学）

宮田 仁（滋賀大学）

山内祐平（東京大学）

副委員長：加藤 浩（メディア教育開発センター）

・舟生日出男（広島大学）

・柏原昭博（電気通信大学）

・澤本和子（日本女子大学）

・鈴木真理子（滋賀大学）

・永田智子（兵庫教育大学）

・堀田龍也（メディア教育開発センター）

・室田真男（東京工業大学）

・山口悦司（宮崎大学）

・久保田賢一（関西大学）

・鈴木克明（熊本大学）

・竹中真希子（大分大学）

・西森年寿（東京大学）

・望月俊男（専修大学）

## 編集委員会からのお知らせ

編集長 清水康敬

現在編集委員会では、投稿数が多くなった論文査読業務を能率的にするために、論文査読支援システムの改良を進めています。それに伴い以下の点が変更になります。

ご理解をいただきさらに多くの論文が論文誌に投稿されることを期待しています。

### 論文誌への投稿が電子投稿だけになります

- ・ 現在、郵便による投稿もできるようにしています。しかし、ほとんどの論文が電子投稿されるようになり、非会員が責任投稿者の場合に郵便で投稿されているのが実状です。
- ・ しかし、査読結果と修正原稿提出も郵便となりますので、時間がかかると共に事務的に煩雑となっています。
- ・ そこで、投稿論文の査読業務の効率化のために、来年1月以降は電子投稿だけを受け付けることとなります。
- ・ 電子投稿の仕方については以下をご覧ください。ただし、投稿の際には学会から通知していただきますID・パスワードが必要となります。

<http://www.jset.gr.jp/thesis/tejyun.html>

### 論文誌への投稿責任者は会員に限ることになります

- ・ 現在、論文の投稿者の中に1名でも会員が含まればよいとなっています。
- ・ しかし、論文の投稿責任者が会員でないと電子投稿ができませんので、投稿責任者は会員に限ることになります。
- ・ 非会員が投稿責任者の場合は入会していただくことをお願いします。

### 査読期間が短くなります

- ・ 現在、査読者が査読結果を提出していただく期限が5週間までとなっています。
- ・ しかし、2回目の査読に関しては、提示した採録の条件を満たしているかの判定になりますので、以下のように査読期間を短くすることになりました。

**C判定（条件付採録）の場合：4週間**

**B判定（軽微な条件付採録）の場合：3週間**

- ・ ただし、ショートレターは従来通り3週間です。
- ・ また、査読の依頼をしてから引き受けられるかの回答期限については、現在は決めていませんが、原則1週間以内に回答をいただくようお願いすることになりました。

どうぞよろしくご理解をいただきたくお願いします。

## 学会日誌

2008年

10月11日(土)～13日(月) 第24回全国大会(上越教育大学), 理事・評議員会  
11月29日(土) 理事会  
12月10日(水) ニューズレター 162号発行  
12月20日(土) 研究会「教育システム・教材開発のためのICT活用」(いわき明星大学)

2009年

1月24日(土) 理事会  
2月25日(水) ニューズレター 163号発行  
3月7日(土) 研究会「ICTの教育活用と授業設計」(椋山女学園大学)  
3月21日(土) 理事会  
5月6日(水) ニューズレター 164号発行  
5月16日(土) 研究会「ICTを活用したFD」(徳島大学)  
6月24日(水) ニューズレター 165号発行  
7月4日(土) 研究会「教科教育学と教育工学の交差点」(宮崎大学)

## 国際会議の案内

2008年

E-Learn <http://www.aace.org/conf/eLearn/> (11/17-21 Las Vegas)  
DLI2008 <http://www.waseda.jp/DLI2008/> (11/19-22 早稲田大学)

2009年

SITE 2009 <http://site.aace.org/conf/> (3/2-6 Charleston, South Carolina)  
ED-MEDIA <http://www.aace.org/conf/edmedia/> (6/22-26 Honolulu)

## ニューズレターの発行スケジュール

本ニューズレターは、総会・全国大会・研究会の開催日の10日前には、会員の皆様のお手元に届くよう発行することを原則としております。また、開催案内等の掲載については、総会・全国大会は少なくとも3回、それ以外に関しては2回程度、皆様にご案内できるように、そして開催後には速やかに報告が掲載できるように、計画して台割を組んでおります。

ご理解の上、本ニューズレターをご活用いただけますようお願い致します。

## お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2008@jset.gr.jp)
- ◆ ニューズレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

### 広報委員会

編集長：清水康敬，広報委員長：赤倉貴子，広報副委員長：宮田 仁，  
委員：矢野米雄，伊藤剛和，香山瑞恵，神月紀輔，皆川 武，三輪吉和  
E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニューズレター No. 161

2008年10月01日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL/FAX: 03-5740-9505

E-mail: office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055